

- 1 主題名 温かな心
内容項目B－（6）親切、思いやり
- 2 教材名 「六べえじいとちよ」（「新しいどうとく3」東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) 教材観

本教材は、口をきかずにいつも暗い顔をしている独りぼちの六べえじいに対して、主人公ちよが進んで親切な行為をすることで六べえじいの心が少しずつ解きほぐされ、六べえじいの心が変容していく教材である。ちよの温かい親切と村人に心を開くようになった六べえじいの変容を通して、相手の立場に立って進んで親切にすることの大切さに気付かせたい。

(2) 学園生の実態

実態調査（*月*日 *人実施）

- | | |
|---|---|
| 1 | 友達や先生など周りの人達に進んで親切にしていますか。
している *人 どちらかといえばしている *人 どちらかといえばしていない *人 していない *人 |
| 2 | 1で「している」「どちらかといえばしている」と答えた人に質問します。誰にでも進んで親切にしていますか。
している *人 どちらかといえばしている *人 どちらかといえばしていない *人 していない *人 |
| 3 | 親切にしてよかったと思ったことはありますか。
ある *人 ない *人 |
| 4 | 3で「ある」と答えた人に質問します。それはどんなことですか。（自由記述）
・「ありがとう」と言われて嬉しかった *人 ・仲が良くなった *人
・お礼に親切な行為をしてくれた *人 ・友達が増えた *人 ・褒められた *人 |
| 5 | 親切にしたのに、嫌な気持ちになったことはありますか。
ある *人 ない *人 |

実態調査の結果から、本学級の約9割の学園生が周りの人達に進んで親切にしていると感じている傾向があることが分かった。さらに、その学園生の全員が誰にでも親切にしていると感じている傾向があることから、相手のことを思いやり進んで親切にしていることが分かった。その一方で、親切にしたのに嫌な気持ちになった学園生が*人おり、その内容から、相手の置かれている状況や困っていることなどを自分のこととして想像できないと考えられる。

(3) 指導観

- ① 既習教材で学んだことの振り返りを通して、本時の学習への問題意識を高めるようにする。
- ② 学園生の考えを深める手立ての一つとして、補助発問の内容を工夫し、話合いに応じて適宜提示する。
- ③ 多様な感じ方や考え方が引き出されるために、手立て（表現カード、付箋紙、ICT 機器など）や場（学習形態、座席の配置）を工夫する。表現カードについては、3色（黄色、橙色、青色）構成のものを活用し、「黄色は友達と同じ考え、橙色は友達と似た考え、青色は友達と違う考え」の共通理解に基づいて、意図的指名や移動交流時などで効果的に活用する。
- ④ 自己の生き方についての考えを深められるように、発問や場の工夫をし、自己を見つめて内省する場面を設ける。
- ⑤ 教師の説話を通して、自己の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせ、親切な行為についての考えを深めさせる。

4 本時の学習

(1) ねらい

親切とはどのような行為としての表れなのかを考える活動を通して、相手の立場に立って進んで親切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

学習活動・発問 ◎中心発問 ○主な発問	予想される学園生の反応	指導上の留意点 評価
1 これまでの学習を振り返り、本時の学習との関連性を考える。 既習教材「一さつのおくりもの」で、「親切な人とはどんな人か」について学習したことを振り返る。 2 本時の課題を確認する。 進んで親切にするためには、どのような気持ちでせつしたらよいだろう。 3 教材「六べえじいとちよ」を読み、話し合う。 ○ちよは、なぜ六べえじいの家に毎日通い続けたのだろう。 (補助発問) ・もし自分がちよの立場だったら、六べえじいの家に行くことはできるだろうか。 ◎六べえじいの心が変わったのはなぜだろう。 ・自分の考えを付箋紙に書き、その付箋紙を提示しながらグループの友達と共有する。 ・共有した考えを、グループで整理する。 4 進んで相手に親切にするためにどのようなことを心がけていきたいかについて考える。 5 教師の説話を聞く。	・六べえじいがかわいそうだから。 ・六べえじいのことが気になってしかたがないから。 ・ちよが本当に自分のことを心配してくれていることが伝わったから。 ・ちよが心から自分のことを気にしてくれているのが分かり、嬉しかったから。 ・まず相手の立場に立つことを意識していけるようにしたい。 ・相手のことをよく知ろうという気持ちで相手に接したい。	・「一さつのおくりもの」の学習についてのパワーポイントの資料を通して、児童に親切についての道徳的価値の発展性について気付かせる。 ・課題を提示する際は、「進んで」の言葉を後ら追加することで、「一さつのおくりもの」にはない親切とは、どのような行為としての表れなのかを考えられるようにする。 ・六べえじいの置かれている状況や気持ちを自分のこととして想像できるような発問をすることで、ちよの六べえじいに対する思いを理解できるようにする。 ・表現カードを基に、自分と違う考えをもつ友達と話し合うことで、六べえに対するちよの気持ちについて、多面的・多角的な見方ができるようにする。 ・付箋紙に書かれた考えをグループで共有することで、自分の考えと友達の考えを比較し考えが深まるようにする。 ・六べえじいとちよと村人の気持ちを、対比して板書することを通して、それぞれの登場人物の気持ちの違いが分かるようにする。 ・全体の話合いでは、表現カードを活用することを通してねらいに即した意図的指名をし、多様な考え方や感じ方に気付けるようにする。 ・Teams で考えを共有することで、自分の考えになかったものを受け入れて自分の考えに生かしたり、新しい見方や考え方を生み出すための機会とする。 相手の立場に立って考えることの大切さに 気づき、進んで親切にしようとしている。 (Teams、発言) ・説話では、教師の過去の経験やその時に感じたことを話すことで相手のことを考え、進んで親切な行為をすることについて自分なりの考えを深めさせる。